

(様式1)

自己評価

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営				
1. 理念と共有				
1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	馴染みの地域の中で、その人の能力・素質を十分に探り、生き生きとその人らしく生活して頂けるよう理念を作りあげている。	○	住み慣れた環境の中で、馴染みの職員が一人一人の個性を伸ばし、その人のペースに合わせ、安心して生活できるよう支援していきたい
2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	毎日朝の申し送り終了時に唱和して、理念を共有し、日々努力している。	○	
3	○家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえるよう取り組んでいる	うらら広報紙を年4回発行し、その中で取り上げ、活動内容を載せているが、家族・施設内・役場と限定された方のみ配布をしている。	○	各地域の老人会等に出席して事業所の理念や取り組んでいる様子を報告し、理解を得たい
2. 地域との支えあい				
4	○隣近所とのつきあい 管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている	隣・近所が遠く、なかなか付き合いが出来ないが、ゴミ捨てや隣・近所の方が散策やお孫さんを連れ駐車場まで来られた時等はお声掛けをしている。	○	地元・地域の人とのコミュニケーションを図り、お茶を飲んだり、談話が出来る様にしたい
5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	公民館祭り、地域の幼稚園・保育園の行事、正月には地域の神社へお参りに行くなど、参加させて頂いている。又、交番にはご利用者と挨拶に行ったり、夕涼み会に参加して頂くようお願いしている。	○	地元の行事等に参加して、地域（特に地元）の人々とコミュニケーションを図っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	運営推進会議の中で話し合いがされたり、職員間で話し合いをしている。11月に壬生町高齢者等会合にグループホームについて理解して頂けるよう、説明参加する。	○	今後も地域高齢者会合に参加して、グループホームについて説明し、理解を得ていきたい
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	全職員が意義を理解し、前年度指摘された部分を改善できる事は、委員会活動等の中で取り組んだり、本部にも協力を仰いでいる。	○	勉強会・セミナー等に参加して、内部研修を行い、全職員の知識を高め、サービスの向上を図りたい
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	生活状況・サービスの内容等随時報告している。運営推進会議の内容等については、月1回の職員会議で報告・回覧している。又、理解を得て、サービスの向上に努めている。	○	現在御家族1名だが、2～3名に増やし、意見交換の場としても活用していきたい
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	あまり機会がないが、ホームの家族参加の行事に参加して頂き、運営推進会議の説明等をして頂いている。	○	今後も行き来する機会を作り、相談・指導を仰いでいきたい
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	身内の関係が希薄な方など、生涯安心して暮らして頂けるように活用している。常にパンフレットを備えている。	○	勉強会・セミナー等に参加して、内部研修を行い、全職員の知識を高めていきたい
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	特に夜間職員一人なので接遇改善委員会の職員を中心に、事業所・ホーム内で虐待が起きない様話し合いを持ったり、防止に努めている。又、夜間業務に接遇改善委員を一人設けている。	○	勉強会・セミナー等に参加して、内部研修を行い、全職員の知識を高めていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制				
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所申し込みの際にも、不安・疑問・悩み等をお聞きして、説明し解消して頂く。更に契約時、契約書・重要事項説明書でも説明して理解を得ている。又、退所指導も行い、ご家族が納得出来るまで話し合いを持っている。		ホーム長・ケアマネージャー・リーダーを中心に、解約的な説明・指導をして誤解を招かぬよう図っていききたい
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	お茶のお持て成し時や夜間職員に話しに来られたり、ケアプランの見直しの際、意見・不満・苦情が言えるような雰囲気作りをし、話し合いを設け反映出来る意見は取り上げている。		
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	年4回のうらら広報紙にて生活ぶりや職員の異動を送付してお知らせしている。又、月1回の受診を御家族に依頼し、健康状態を把握して頂いている。金銭管理も年4回個人的に必要な方には、随時台帳をコピーして渡している。		
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ケアプラン見直し時や来棟時に意見等が随時言えるような雰囲気作りをしている。又、反映出来る意見は参考にして実施している。		
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	施設長会議・接遇改善委員会・職員会議等で意見や提案を聞く機会を設け、反映している。又、棟カンファレンス・申し送り・リーダー会議等随時設けている。		
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	ご利用者のADLの低下、不穏時、行事時、ご家族の要望時等通常体制では不都合がある場合には、随時職員の確保・勤務調整に努めている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	異動は極力抑えてはいるが、職員の勉強の為と他等の理由により極少人数の異動が年で1～2回ある。		
5. 人材の育成と支援				
19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	勤務年数や新人育成・職員個人に応じた内・外研修の機会を全職員に与えている。		
20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	あまりしていないが、研修で来荘された施設との交流を通じ、サービスの質の向上に努めている。		
21	<p>○職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>	親睦を図る慰安会や行事のご苦労会等食事会を行っている。又、随時話を聞いたり、カンファレンスを開催して軽減している。		
22	<p>○向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>	各資格を習得する為のセミナー参加時は勤務調整を行い、他の職員にも協力を仰いでいる。又、各自の特技・趣味をレクリエーション・リハビリ等に活かす等常に向上心を持って支援している。	○	更に資格等習得するセミナー等には、協力を仰いでいきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援				
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応				
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	申し込み相談を受けてから、定期的に現状の確認・意思の確認をさせて頂く機会をつくり、コミュニケーションを図っている。		
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	定期的に連絡を取って、相談を受けている。又、随時連絡・困りごと等受けている。		
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	必要としている支援を見極め対応しており、状況により他サービスの情報提供も行っている。		
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気に徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に見学に来て頂いたり、自宅へ訪問させて頂くなど行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援				
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	入居者の目線に合わせ、ゆとりを持って相手と接すると共に生活の知恵を授けて頂いている。又、職員が淋しい・浮かない顔をしていると「何も考えず、笑って元気だして」と励ましの言葉を頂く事もある。	○	認知症の方への理解、接し方などバリエーションの方法を学んでいきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	家族面会時、職員の方から積極的にお声を掛けるようにしており、お互い話しやすい状況を作っていく努力をしながら、情報提供・連携を図っている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	ご家族が気軽に来棟できやすいようコミュニケーションを取ったり、お茶のお持て成しで歓迎したりして構築を高めている。又、ご利用者の誕生月に食事会を設け、家族にも参加して頂き、より良い関係が持てるきっかけ作りを支援している。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	随時面会の対応・地域からの面会者への心使いと対応・利用者の家族による馴染みの方の面会依頼の対応	○	どんどん外へ出る機会を設けていきたい
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	一人一人の性格を理解した上で、クラブ・レクリエーション活動で交流を持ち、皆の仲間に入りやすいよう声掛けをし、お手伝いなどを通し、助け合いながら生活して頂いている。	○	孤立しがちな入居者には、職員が声掛けをして、皆の仲間に入りやすいようにしている
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	退居後、他施設に入所されても職員が遊びに行ったり、ご様子を伺いに行ったり、本人や家族が遊びに来荘されたりして付き合いを大切にしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント			
1. 一人ひとりの把握			
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	在宅で愛用していた家具などを持ち込んで頂き、各個人にあった空間を作り、何事においても強制はしない。	
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時のフェイスシート又家族からの情報収集、ご利用者からの話を基にサービス担当者会議にて職員は把握している。	
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	個人の意志を尊重し、自由な時間に読書や音楽・TV鑑賞、散歩等趣味を楽しんで頂いたり、休みたい時に休んで頂き一人一人の過ごし方を把握している。	
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し			
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	毎月1回ケアマネージャー、担当職員、家族との話し合いにて、介護計画を作成している。	
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	6ヶ月に1回見直しを行っている。又、変化があった場合すぐにカンファレンスを開き、新たな介護計画を作成している。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	各個人の経過記録に、特徴や変化を時間を追って詳細に毎日記録し、情報を共有している。又、ケアプランニーズに合わせたサービスもチェックを行い、見直しに活かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所としては、現在長期入所しか行っていない。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地域の老人会の訪問、社協・傾聴他各種ボランティアによるクラブ活動の指導、消防訓練への協力、幼稚園の運動会招待、交番への挨拶訪問等行い、協力をして頂いている。	○	受け入れ型の交流になっているので、地域の行事等に出来るだけ参加していきたい。
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	本人・家族の意向や必要性に応じて、ヘルパーや家政婦協会等利用でき得るサービスを検討し、情報の収集・提供の支援をしている。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	身内の関係が希薄な方や希望される方には、「あすてらす」を利用して頂いている。	○	今後は成年後見人制度の利用を勧めていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人及び家族の希望する医療機関に受診願っている。定期受診、状態変化時等は必要に応じDrへの報告書を作成したり、電話連絡を取ったりして情報交換をし連携を図っている。		
44	○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	日頃から家族・主治医との連携を図り、状態変化時は家族へ連絡、主治医へ相談し指示を仰いでいる。		
45	○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	訪問看護を契約された利用者の生活状態の指導を仰いだり、アドバイスを受けたりしている。		
46	○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院時より1～2回/w経過を家族から伺ったり、病院に伺ったりして治療の方向性、状態の確認をしている。又、退院時には退院指導や今後の過ごし方の注意を確認させて頂いている。		
47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	入居時に施設がターミナルケアを行っていない事、医療的介護が必要となった場合、当施設では受けられない事を説明している。又、共同生活に支障をきたす場合も同様である。状態変化時は家族やかかりつけ医にその都度報告している。	○	重度化対応でDrの指示にて医療型の訪問看護を受けているが、人的配置を備えて対応出来る様にしたい
48	○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	利用者の状態を把握し、必要な時はかかりつけ医の意見や支持を仰ぐなどチームとしての支援に取り組んでいる。又、施設での生活が難しい利用者家族に対しても、今後の相談・情報の提供を行っている。	○	かかりつけ医院、家族とも十分に連携を取り、誤解のない様対応・支援していきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	○住み替え時の協働によるダメージの防止 本人が自宅やグループホームから別の居 所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケ ア関係者間で十分な話し合いや情報交換を 行い、住み替えによるダメージを防ぐこと に努めている	移転先を検討する際、必ず家族と職員も 下見をし、本人及び家族の意向に添うも のか検討し、相談している。又、当施設 に入居頂く場合も事前に見学して頂き、 今迄使用されていた家具・思い出の品な ど持参願っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
1. その人らしい暮らしの支援				
(1)一人ひとりの尊重				
50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ね るような言葉かけや対応、記録等の個人情 報の取り扱いをしていない	接遇改善委員会にて内部研修を実施。言葉使い等 は、職員間でも注意しあい改善されている。又、 月毎に接遇の目標を決め、朝礼時に唱和すること により、職員の意識向上を図っている。記録等の 個人情報の取り扱いは鍵がかかり外部から見えない 所に保管している。		
51	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 本人が思いや希望を表せるように働きか けたり、わかる力に合わせた説明を行い、 自分で決めたり納得しながら暮らせるよう に支援をしている	本人のニーズを傾聴し、どのように実施した いのか等共に考え、分かりやすい言葉で表現 し、納得するまで話をする。自分で決断出来 ないような時は家族の力を借り、本人らしく 暮らして頂けるよう支援している。		
52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのでは なく、一人ひとりのペースを大切にし、そ の日をどのように過ごしたいか、希望に そって支援している	食事や入浴等の時間は、日課となってい ますが、日々の状態・本人の希望に合わ せてゆとりある生活を尊重している。	○	今後も更に一人一人その人らしいゆとり ある生活を支援していきたい
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援				
53	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれがで きるように支援し、理容・美容は本人の望む 店に行けるように努めている	個人所有以外にも、各棟化粧道具を揃えてお り、自由に使用されている。又、行事や外出 の際、衣類のコーディネート相談に応じたり、 理・美容の依頼を受けた時は家族に連絡 を取っている。移動美容室も家族依頼時使用 している。	○	外出支援に目を向け、地域の理・美容室 に出掛けるようにしたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	個々の状態・希望に沿って、季節感のある献立を取り入れ、職員と一緒に調理準備や片付けを行っている。ご利用者と一緒に食事をし、味付け等の意見交換を行っている。	○	家庭的なメニューを取り入れたい
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	10時と3時、夕食後にお茶のお持て成しを行い菓子等も振舞っているが、それ以外にも個人購入し自由に召し上がってもらっている(制限ない方の場合)。自己管理が難しい方には職員が預かり対応してる。お酒・タバコも楽しまれている。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	一人一人の排泄パターンに合わせてトイレの誘導・見守りを行ったり、Pトイレの設置をすることで、失禁やオムツの使用を減らしている。失禁時には、清拭を行っていただき清潔・サッパリ感を保っている。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	希望者には夜間入浴も行い対応している。出来るだけ、毎日入浴実施しご本人の都合に合わせて入浴して頂くようにしている。又、ゆず湯、菖蒲湯、季節の花などを湯に浮かべ季節感も楽しんで頂いている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	季節に合わせ、冷・暖房、ドライ等利用して頂き、個々の好みの寝具を備えていただいている。又、眠れない時には、足浴等を行い気持ちよく眠れるようにしている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	一人一人の生活歴を活かし、趣味である観葉植物のお世話、絵画や裁縫で季節物の制作やクラブ活動に参加して頂いている。又、天気に応じ、庭内での散策やお茶のお持て成し、食事会も行っている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	個人でお金を所持し、買い物時、旅行先のお土産購入時、外食時等自分で精算する方もいる。又、そうでない方も、家族からの預かり金を必要時渡している。曾孫さんの面会があり、お小遣いとして渡している方もおられる。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散策を好む方が多く、春は近隣の花見、秋は紅葉と庭内・庭外を問わず出掛けしている。最近では裏の雑木林に出来た遊歩道を活用している。又、希望状況に応じて、利用者と職員の一対一での外食・ショッピングも行っている。	○	一対一での対応が特定の利用者に限られることが多く、他利用者にも行ってきたい
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	月毎の行事を利用し、一泊旅行・観劇・ミニドライブ・外食等に出掛け支援している。又、ご家族とも自由に外出・外泊されている。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時の電話の対応、手紙の投函等行っている。但し、ご家族が本人の電話を希望しない場合対応しきれない時もある。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	来棟時は笑顔で挨拶をし、訪問しやすい雰囲気を作っている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	十分理解し、出来る限り見守りにて対応しているが、危険防止の為に最小限の拘束をしなければならない時もある。但し、やむを得ず拘束を実施する時は、必ず御家族に了承頂き、同意書を頂いている。	○	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	身体に関わる場合、一時的に鍵を掛ける時もあるが夜間のみとし、鍵を掛けないケアを実践している。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	必ず一人はホール内で待機し、利用者のみにはしない。又、居室で過ごされることの多い利用者へはプライバシーを配慮しつつ安全確認を行っている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	家族・利用者の方々に同意を頂いており、薬や洗剤・刃物・針等を職員が預かり、見守りの中使用して頂いている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	ひやりはっと・事故報告書を記入し、カンファレンスを開き事故防止につなげ改善している。又、報告書は回覧して全職員が目を通し意識を高めている。	○	勉強会・セミナー等に参加して、内部研修を行い、全職員の知識を高めていきたい
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	マニュアルを熟知し、緊急事態に対応できるようにマニュアルを掲示してある。	○	マニュアルだけでなく、訓練も定期的に行っていきたい
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	定期的に避難訓練等を行い、地元の消防署の協力も得られている。	○	近隣の協力も得られるよう、常日頃より関わりを持っていきたい

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	起こりえるリスクについて家族に説明し、早い段階での話し合いを行い対応している。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	常日頃利用者の状態等観察し、異変の発見に努めている。異変時・入浴前にはバイタルチェックを行い、記録して共有し対応している。必要時には家族・かかりつけ医にも報告している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個人記録と一緒に保管しており、職員は確認・理解している。処方内容に変更があった場合は、申し送りや連絡ノートで職員間の情報共有をし、様子観察を行っている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	便秘の原因や及ぼす影響を理解して、牛乳やマミー・ヨーグルト等を摂取して頂いている。又、下肢強化運動・散策等も行っている。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	見守りを基本とし、必要に応じて支援している。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	一人一人の量を把握しており、その方に応じた支援をしている。摂取量を確認し、特に必要な時はチェック表に記入している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症対策のマニュアルを作成し共有し、手洗い・うがい・換気・加湿器での湿度調整、布団乾燥等を実行している。又、インフルエンザの予防摂取も実施している。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	食後、布巾・まな板等漂白や日光消毒実施している。冷蔵庫・食品棚は夜間帯清掃し整理している。食材は使用に合わせて毎朝業者から配送される。食中毒についても毎食の検食を取り、管理に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	施設の入り口には、感じ良い表札が掛かっており、建物の周りや玄関周囲には四季折々に丈の短い草花・花の咲く植物を植栽して、安心して出入り出来る様にしている。		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、ホール、廊下等には利用者が制作した作品・花や写真・絵画等をかざっている。又、ホールには金魚の水槽を設置してある。台所・トイレはカフェカーテンがしてあり、又、壁のブラケットの間接照明が心地よい様に設計されている。ロールカーテンも各棟の色で統一されている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールには、TV・CDカセットが設置され、棟のイメージカラーで揃えられたソファがあり、利用者はTVや音楽鑑賞・お茶や談話を楽しみにしている。又、足裏マッサージ・下肢訓練のスペースが設けてあり、思い思いに使用されている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	生活用品・寝具などは、以前使っていた物使いやすい物を使用し、安心できる工夫をしている		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている	一斉換気を1日1回以上行う他、湿度調節にはご利用者の状態に応じて換気し、設定温度は少々高めに設定している。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関入り口には、すべり止めが張られ棟全体がバリアフリーになっている。ベット脇・トイレ・浴室にはコール設置され、廊下・トイレ・浴室に手すりがあり、つかまりながら歩く事ができ、安全を確保している。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している	廊下は回廊式となっており、どのルートからも職員カウンターに通じ、混乱のない様、誘導状況を作っている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている	入居者が散策の際、庭の四季折々の花を楽しまれている。ベランダには、天気の良い日に居室内の植木を出し、水やり等行っている。晴天日は、寝具類等干している。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		
項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

- ・全職員が、トータル的な接遇に対する姿勢を身につけ、お持て成しの心を持ち、常にコミュニケーションを図り、笑いのある生活を提供している。
- ・ケアマネジャーを中心に月1回カンファレンスを開催し、ご利用者のニーズに沿ったケアプランを作成しサービスに努めることで、安心・安全・快適な生活を提供している。
- ・一人一人を尊重し、潜在能力を引き出し残存機能を活かしたりハビリ・レクリエーション等によって、本人の意欲向上と満足感を達成することが出来る様支援している。